

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	小川 智博	学校名	宮崎県日向市立財光寺小学校
実施学年	小学校3年	教 科	総合的な学習の時間
单元名	日向市の祭りを伝えよう。		

《学びを深めたいポイント》

- ・ひょっとこ祭りの魅力についての気づきを発信させることで、自分の考えを表現することに目的意識を持って活動に取り組めるようにする。
- ・本時では、「ひょっとこ祭り」の魅力について、全体で交流する場面を設定する。その際にはスカイメニューの気づきメモを活用することで、他者の考えを知り、祭りの魅力を考える際の観点の広がりを図りたい。また、自分の考えを動画に表現することで、自分の考えを進んで伝えることの良さに気づかせたい。
- ・「Flip」というマイクロソフトの動画共有サービスを活用することで、発表の苦手な子どもでも自分の考えを表現する場面を多く設けたい

《SKYMENU 活用のポイント》

- ・スカイメニューの気づきメモを活用することで、情報の発信者マインドの育成と、インタラクティブ（双方向的）な情報交換を行う。
- ・発表ノートのシンキングツール（クラゲチャート）を活用することで、他者の意見の良さに気づき、自身の考えを深めるため手立て（可視化）とする。
- ・スカイメニューに標準搭載の「手書き機能」は児童のタイピング能力の有無に依存しない、素晴らしい機能である。特に低学年など、タイピングに苦手意識がある児童にとっては、自分の意見をデジタルで表現することが容易になり、意欲的に取り組む傾向にある。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	1 本時のめあてをつかむ。		
	ひょっとこ祭りの良さを伝えよう。		
展開	○ 本時の学習の位置づけを確認する。		
	2 本時の学習の見通しをもつ。 ○ 本時の流れを知る。		
展開	3 ひょっとこ祭りの魅力を見つける。 ○ 提示資料や動画資料を見て気づいたことをメモする。		
	4 気づきメモに書き込む。 ○ 気づきメモに自分の考えを書き込むとともに、他者の考えを知る。 ○ 全体で交流する。	○ 気づきメモで交流させる。	・全体場で発言することに抵抗のある児童にも発言の場を保障する。
展開	5 クラゲチャートに気づきを書く。 ○ 自分や他者の気づきをまとめる。	○ 気づきメモから友達の良い意見を発表ノートに移す。	・クラゲチャートにまとめさせることで、思考の可視化が行いやすい。
	6 Flip で考えを投稿する。 ○ クラゲチャートにまとめたことを整理し、動画で考えを伝える。 ○ 他者の動画を見て、意見や評価をする。 ○ 学習をまとめる。	○ 発表ノートで、撮影用の台本を作成する。	・手書き機能を活用し、タイピンが苦手な児童も意欲的に取り組む。
まとめ	ひょっとこ祭りにはたくさんの「みりよく」がある。		
	7 次時の学習について知る。 ○ パンフレットや新聞を作ることを知る。	○ パンフレットや新聞作りを発表ノートで行うことを伝える。	・デジタルでの作成物を作ることによって児童の興味関心を引き出すことができる。

《実践を振り返って》

【気づきメモ】

気づきメモの良さについてお伝えします。以下の3つです。

- ・ インターフェイスが見やすい

自治体によってはクラスルームや TEAMS を活用しているところもあります。そういったソフトのチャット機能は多機能すぎて、子供にとってはやや扱いづらいものとなっている現状です（特に中学年くらいまで）ですが気づきメモは子供に身近な「LINE」のような見た目から、さっと取り組めて可視性も高いというメリットがあります。

- ・ いいね機能

いいね機能により、「どの意見が人気（共感が得られている）かすぐにわかる」というものがあります。SNS 時代を生きる子供達にとって、共感が得られている意見を見つけること、また、共感が得られやすい意見とはどのようなものか、について学ぶことができる機能です。

- ・ 発表ノートへの横展開

自分がいいなと思った意見やいいねが多い意見を発表ノートに落とし込むことで、煩雑な意見のまとまりを集約し、シンキングツールに落とし込むことで、思考の可視化を図ることができます。

【展開1 気づきメモへの入力】

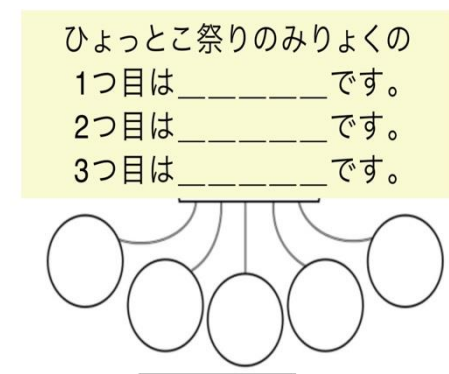
お祭りに関する動画を見た後、児童は祭りの魅力については気づきメモに書き込んでいきます。入力方法については、タイピング、フリック、手書き機能など、児童の実態にあった方法でさせた。手書き機能があることもスカイメニューの良さです。

共感する意見にはいいねをさせることで、他者評価をさせるとともに、共感が得られやすい意見を考えるきっかけとしました。



【展開2 シンキングツールに落とし込む】

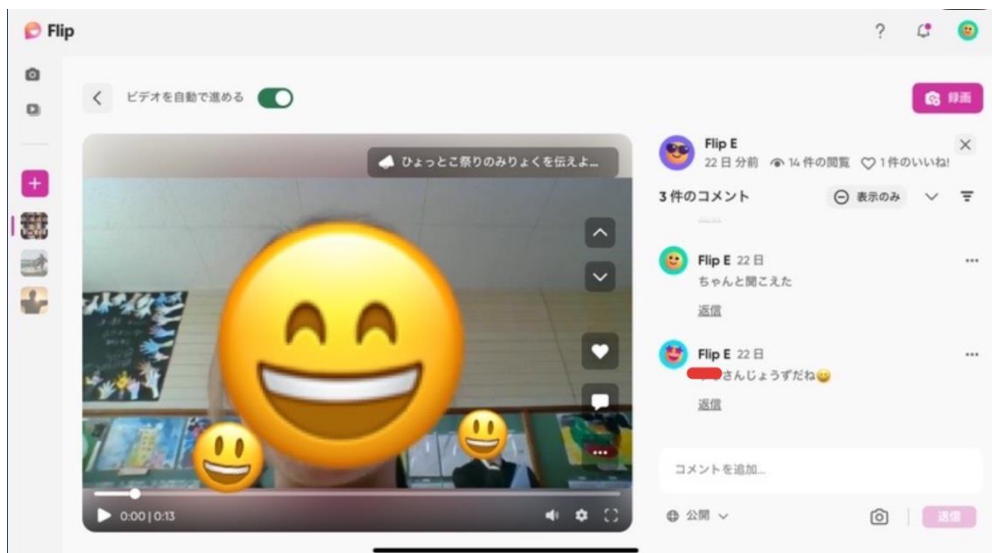
気づきメモは、コメントを選択肢し左下にドラッグすると、指定した発表ノートにコメントを付箋のような形で移動させることができます。この機能を使い、コメントの中からひよっこ祭りの魅力を5つ選ばせ、クラゲチャートに移動させました。その中からさらに3つに絞らせ、魅力を発信するための原稿を作成しました。合わせて、教師側の評価ルーブリックもスライドに含めることで、児童の評価基準も明確に示すことができました。



【展開3 Flip への動画投稿】

今回の授業のパフォーマンス課題は「ひょっこり祭りの魅力を発信しよう」だったので、最後は動画に撮影することで、児童の興味関心を湧き立てることができました。動画に撮影することで、国語科における音読の技能、原稿作成時の段落に関する思考表現と言った、教科横断的な授業展開をすることができました。まさに総合的な学習の必要十分を満たす内容であったと感じます。

		レベル		
		B	A	S
ひょっこり祭りのみりよくを伝えよう	数よくの	1つ	2つ	3つ以上
文の身身	先生が見るポイント	お手本通りに書いた	お手本と自分の考えを合わせて書いた	自分の考えだけで書いた
動画		・声小さい ・早口 ・10秒	・声大きい ・ゆっくり ・20秒	・ちょうどいい声 ・聞き取りやすい ・30秒



【授業を終えて】

今回、スカイメニューの気付きメモ及び発表ノートのシンキングツール(クラゲチャート)を使用し、そしてFlipという動画コンテンツへの展開という授業を行った感想を述べます。

1 番の狙いとしては、これからの SNS 社会を生きる子供たちにとって必要な発信者マインドの育成を図るというものがあります。これらの醸成を図るには、可能な限り、現実社会との体験に乖離がないことを行う必要があります。今回の実践を平たく言えば、友人と LINE をし、その中で考えたことを YouTube に動画でアップするというようなものです。

授業の流れとしては、気づきメモへのコメントを考える個人思考、友達と意見意見を交わし選んでいく協働的な学び、動画配信という個別最適化といった流れです。

もし仮に同じ流れをアナログで行うとすれば、意見を付箋に書き、友達の意見をクラゲチャートにまとめ、原稿を作文用紙に書き、クラス内で発表するというものになります。デジタルにもアナログにも正解はないですが、児童に「やってみたい!」という「必要感」を持たせるという意味において、今回の流れは効果的であったと感じています。

今回の実践が多くの方の参考になれば嬉しいです。